夫婦でも「身寄りなし」に

「まさか、ご夫婦二人とも『身寄りなし』になるとは」と頭を抱えたのは、都内の特別養護老人ホームの所長さん。

最近さかんに新聞やニュースなどで「身寄りのない人」の問題について取り上げられています。

「身寄りなし問題」とは、主に病気や認知症のとき、そして亡くなったときに面倒を見てくれる親族がいないことによって生じる問題を言います。果たして今、「私は身寄りなしです」と積極的に手を挙げる人が、どれだけいるでしょうか。

結婚して子供がいれば、まず「身寄りなし」とは無縁だと思うでしょう。子供がいなくても配偶者がいれば身寄りなしではないし、未婚でもきょうだいや甥姪がいたら「身寄りなし」なんて言うと彼らに失礼だと考えるかもしれません。

つまり「身寄りなし」という言葉が与える印象は「天涯孤独」に限りなく近いものなのです。従って「身寄りなし問題」に当事者意識を持って事前に備えをする人は、まだまだ限定的です。

冒頭のご夫婦は子供がおらず、80 歳を過ぎて夫の認知症が進行し歩行も困難になりました。夫は特別養護老人ホームに入所し、元気だった妻は頻繁に夫に会いにその特養に通っていました。

しかしある時、妻が自宅で倒れて亡くなっているところを発見されました。脳梗塞だったそうです。頻繁に夫に会いに来ていた妻が急に現れなくなったことから、夫が入所している特養の職員らが異変を感じたところから、発見につながりました。それでも、発見されたのは亡くなってから 10 日間ほど経過していました。

末っ子だった妻の３人のきょうだいは既に亡くなっており、その子供達である甥姪とはもう何十年も会っていないし、夫にはもともときょうだいがいません。

突然亡くなった妻の葬儀や納骨、死後の手続きを、認知症の夫が執り行うことは出来ず、また判断力を失っている夫の今後の意思決定を支援してくれる人も誰もいません。

つまり、ご夫婦二人ともが「身寄りなし」の状況になってしまったのです。

人生いつ何が起こるか分かりません。誰もが「身寄りなし」の状況になる可能性があることを自覚し、自分自身の人生のエンディングに備えておきましょう。

OAG ウェルビーR では、頼れる家族がいなくても人生のエンディングを安心して託していただけるよう質の高い備えのサービスを提供することを最も重要視しています。同時に、こうした「身寄りのない」状況に陥る人々に対する不安をあおるような不当な高齢者ビジネスが台頭しないよう、業界として健全に発展し、日本全国の皆様に安心して備えの選択肢を提供できるよう、力を尽くしてまいります。